

2025年度 第23期

事業報告

(事業年度：令和7年4月1日～令和8年3月31日)

2026年6月
特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

<2025 年度概要>

2025 年度は、クリエイティブサポートレッツ設立 25 年。これを機に 1 年前から出版を試みた。そして出版社「いい風」から『違和感のゆくえ』（2025）が発刊された。当初はレッツの 25 年を紐解くような本を起草していたが、それよりも今レッツを支えるスタッフがそれぞれの「違和感」を記す本となった。同調意識を求めたり圧力をかけなければ、人が集まるところに必ず多様性が生まれる。レッツという組織は、この多様性をどれだけ担保できるかにチャレンジしているのかも知れない。まさしく私たちの本である。

2028 年 4 月の完成を目指して、「たけし文化センター田町（仮）」の設計が始まった。この建物は 25 年間の歩みの中でたどりついた一つの「境地」を具体化したとあっていい。

それは「わかりあわないままともにいる」場所。障害のある人だけの建物ではない。多様な人たちが、わかりあわないままともにいる、暮らす、活動する場が出現できるだろうか。私達が夢想する共生社会は果たして実現できるのか。そうした壮大な実験が始まる。

2022 年より行ってきた「ちまた公民館」は、2025 年 1 月より地域活動支援センターを併設させながら新しい段階に入った。一般の人と障害のある人が混在し協働する場所だ。これによって、浜松市の中心市街地に 3 つの拠点を構え、活動に厚みが増した 1 年であった。

障害者の暮らしは家族に依存している。家族での介護が難しくなって初めて福祉サービスを受けることができる。少子高齢化、核家族化によって家族による介護力は低下傾向にある。そうした中で実践するヘルパー事業や重度訪問介護への潜在的なニーズは高い。ヘルパー事業所アルス・ノヴァ ULTRA は徐々に事業が拡大している。しかし、小さな一法人ではどうにもならない。それも現実である。

生活介護事業を行うアルス・ノヴァも 15 年が経ち、利用者の年齢も 30 代が多くなってきた。強度行動障害特有の行動における特徴もさることながら健康面、家族の介護力の低下と今までとは違った課題に直面している。また 2018 年に始まった「たけし文化センター連尺町」での活動は安定しているが、「タイムトラベル 100 時間ツアー」や来訪者・見学者の受け入れ以外の文化センターとしての機能が弱まっているのは否めない。次年度以降の活動に期待したい。

今年度 10 年を迎える「観光事業」を振り返り、改めて観光事業を考える事業として冊子をまとめた。25 年の活動の中で観光事業は障害者施設を運営しながら行う文化プログラムとしてはかなり秀逸である。そこに携わる利用者、スタッフの日常に観光事業がなじんでいる。10 年、20 年と続けていける事業であり、その内容はまさにアートプロジェクトである。そうしたことを改めて確認する機会となった。

昨年度からレッツのガバナンスを高めるための大改革を行っている。25 年の年月の中で全国的にも一定の評価をいただいているが、果たして今後も継続していけるのか、代表である久保田がいなくなったら？といったことをスタッフが改めて考える機会となった。法人運営や福祉の様々な法令順守、書類作成、整備などを全員で実行する体制がようやく整い始めた。

認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ
代表 久保田翠

(1) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

①生活介護

【アルス・ノヴァ連尺町（生活介護定員：20名）】

■利用者数

契約者数 20 名（2026 年 3 月 31 日）、1 日の平均利用者数は 12.4 名(昨年度は 12.3 名)
特別支援学校の職場実習や、利用を検討される方の見学・体験利用にも都度対応している。
送迎車の乗車定員が概ね満員の状態にあり送迎対象地域内であっても対応が困難なことから、
利用希望者の要望に応えられないことがある。

■アルス・ノヴァの支援

これまでの通り個々の興味関心、こだわりやルーティンを尊重した支援をしている。
日々少しずつ変化する利用者の過ごし方に合わせ、居場所の整備が行われており、屋内の雰囲気
が様々に変化するのもアルス・ノヴァの特徴。ごろごろスペースとして 2 階に新たに小上がりが
設置され利用者の憩いの場となっている。
また施設外での活動にも引き続き積極的に参加している。ちまた公民館と HICE（浜松国際交
流協会）の共同イベントへの参加、聖隷クリストファー大学や佐鳴台小学校との交流も継続。愛
知大学や中京大学など、出向く先も年々増えている。
日常生活の中では、街なかを散歩して様々な事象を巻き起こしながら、地域社会の一員として
生活している。個々の利用者の「興味」に楽しんで寄り添い、またスタッフが寄り添われながら、
外部との繋がりが生まれていくのを日々感じることができている。



2 階の小上がりでたこ焼きづくり



かしたたけしによる
大学へのお出かけ

■健康

個々の利用者の生活スタイルに合わせた健康維持メニューを考え、実践している。街なかとい
う環境を活かして駅や浜松城公園まで散歩をしたり、外
出にあまり気の乗らない方のためにトランポリン、バラ
ンスボールなどの屋内でも使える運動グッズを継続的
に購入している。また 1 年ほど休止していた「エアロ
ビ」が復活。講師を呼んで行われるもので、毎週火曜日
の 13 時半から 14 時半まで、ほとんどの利用者が参加
するほどの大人気メニューとなっている。

利用者の体調の変化が見られた際は、担当者や看護師
が保護者にヒアリングを行っている。特に睡眠時間や服



エアロビの様子

薬状況など日中の生活に影響が出そうな情報は随時共有をし、事故が起きないように努めている。

■利用者の生活支援

定期的なミーティングや保護者との面談を通して家庭の抱える課題を見極め、個別性を踏まえた対応を行っている。必要に応じて相談支援やヘルパー事業などの他サービスと連携し、利用者の生活の安定を目指している。

特性による困難さや家庭の経済的状況など保護者の負担を軽減する目的で、出張美容室を利用したヘアカットを行なっている。



ヘアカットの様子

【アルス・ノヴァ伝馬町（生活介護定員：20名）】

■利用者数

契約者数 12 名（2026 年 3 月 31 日）、1 日の平均利用者数は 8.2 名(昨年度は 7.0 名)
2025 年 3 月にみをつくし特別支援学校を卒業した方が 1 名利用を開始した。

利用を検討される方の見学や体験にも対応している。生活スタイルや過ごし方の希望を聞き取った結果、地域活動支援センターやヘルパー事業を紹介するケースが多々あった。

■アルス・ノヴァ伝馬町の支援

利用者それぞれの個性を軸に支援が行われており、手芸をしたり、歌を歌ったり、好きなことを存分にできるよう環境を整えている。月 1 開催の音楽イベント「玄関ライブ」は 50 回を越え、利用者の表現の場として重要な役割を担っている。

そういったルーティンに限らず、新しいグッズや道具を定期的にスタッフが提案し、それが継続的な楽しみとして定着することもある。

お気に入りの場所に出かけることも多く、遠鉄百貨店やクリエート浜松などに出向き、街なかならではの環境を楽しんでいる。バザーや〇〇展など外部のイベントが頻繁に開催されているのも街の魅力のひとつで、チラシをチェックして楽しみにしている利用者もいる。

また、ドライブで海や山に出かけることも変わらず続いており、自然に触れる機会をつくっている。



伝馬町での活動

■健康

利用者の年齢が上がるとともに健康の問題が表面化してきており、相談支援や看護、他施設と会議を重ねながら連携・対応している。

運動能力の低下も懸念され、今まで出来ていたことが出来なくなってくるという事例が増えてきた。そんな中で、10 月に利用者がトイレで転倒・骨折する事故が起きた。そういったことを踏まえて利用者一人ひとりの支援方法の大規模な見直しが行われた。

■屋外活動、他者との繋がり

ちまた公民館で開催される「レッツ爆発アート」では、地活利用者や参加者の子どもたちとの交流が盛んに行われた。ちまたパークにも定期的に訪れ「凸凹まつり」に関連したワークショップにも多数参加、スプレーアートなどの新しい体験によって、日常生活での創作活動が盛んになるなど普段の活動にも変化がみられた。

「タイムトラベル 100 時間ツアー」では毎月様々なタイプの観光客が訪れており、日常生活では出会えないような人たちとの交流が利用者・スタッフの日々の刺激となっている。再訪される参加者も多く、友人のような関係性が築かれていく様子もみられた。



爆発アートの参加者と一緒に制作

② 重度訪問介護

【アルス・ノヴァ ULTRA】

■利用者数

延提供時間 19,577 時間（前年度比約 7%増）

年間延べ実利用者数 153 人（前年度比約 22%増）

■自立生活の支援

ヘルパー事業所アルス・ノヴァ ULTRA は、障害のある人の文化的かつ自立した生活を支援するというミッションを掲げ、2020 年 9 月の事業開始以来、重度知的障害のある当事者の地域での自立生活を支えてきた。

2025 年度は、たけし文化センター連尺町のシェアハウスおよびゲストハウスが、当事者にとって親元を離れ自分らしい暮らしを実践するための「体験の場」であるという開設時の目的を改めて確認した。そのうえで、同シェアハウス等で生活実践を積み重ねてきた 4 人の当事者それぞれの個性に合わせた、体験のその先にある地域での暮らし方を模索し、展開した一年となった。

■支援付きひとり暮らしへの挑戦

2025 年 5 月から、たけし文化センター連尺町から徒歩数分の場所で、当事者の一人が重度訪問介護を活用した支援付きのひとり暮らしを開始した。当法人とも縁のある、まちづくりに取り組む事業者が管理運営するシェアハウスで、すでに数名の学生が暮らしている物件であった。多様な人が暮らし、関係が生まれる場となることを願うオーナーから入居を提案いただき、新生活が始まった。また、行政との粘り強い交渉の結果、生活実態に合わせた支給決定への移行を実現するなど、制度運用の適正化に向けた進展も見られた。

さらに、数年にわたりシェアハウスで生活経験を積み重ねてきた別の当事者が、2026 年 3 月に市内の公営住宅へ転居し、支援付きのひとり暮らしを開始した。本人を中心に支援関係者や家族が集まる定期的な会議を重ね、金銭管理のシミュレーションや本人の特性に合わせた環境の調整など、新しい生活の土台づくりを多角的に進めた。

これらの状況の変化に伴い、2024 年夏から自立生



新居にて新たな暮らしのスタート

活体験のために用意していた物件は、2025年5月に賃貸契約を終了した。

■住まいの確保という課題

一方で、新たな支援付きのひとり暮らしを目指す物件探しにおいては、障害を理由に入居を断られるなどの差別的状況に直面し、管理会社や貸主への直接交渉および合理的配慮の要請が課題となった。また、行動特性に合わせた建物構造や経済条件に合った家賃なども物件探しの障壁となり、重度障害のある人が地域で住まいを確保することの困難さが改めて浮き彫りとなった。

■自立生活体験の継続

2026年3月時点で10名の重度知的障害のある当事者が重度訪問介護を利用して自立生活を体験しており、平日夕方や一泊二日の機会に、介護者とともに親元を離れた場所で外出、遊び、食事、入浴などの生活経験を積んでいる。

■街での暮らしと外出／投票の支援

当事者と介護者はさまざまな場所に出かけた。日々の買い物や散歩、通院といった外出では、徒歩や公共交通機関を柔軟に利用している。また、浜松まつりへの参加、県外の音楽フェスティバルやフォーラムへの参加、映画鑑賞や市外の文化施設への小旅行など、当事者の興味・関心に基づき、介護者の提案も取り入れながら、多様な経験を重ねた。

2度の国政選挙において投票支援を実施した。写真付きの候補者一覧や投票支援カードを用いた意思決定支援を継続しており、主権者としての権利行使を支えている。投票支援をめぐる法人内でもさまざまな議論があったが、体験したことに対して行為で意思を示すという知的障害のある人の特性を踏まえ、まずはその場に現れることを支援することを大切にしたい。選択のための情報や知識の保障、本人の特性に合わせた選択やコミュニケーション方法の模索、候補者や自治体選管への普及などは引き続き課題である。



投票を終えて

■支援を社会に開く

2025年10月から12月にかけて、「ちまたパーク」にて介護者たちの定例会議を「井戸端しえんかいぎ」と題して公開で開催した。「ごはん」「旅」「家」をテーマに地域のゲストを交え、支援する／されるという関係以前にある、一人の人間としての生活や生き方を語り合いながら、それを土台としたともに生きる支援のあり方を社会に開く実践を積み重ねた。



「食」をテーマにした井戸端しえんかいぎ

■支援体制の強化

2025年度は、支援体制の質的向上と経営安定化にも注力した。全スタッフの個別研修計画の策定と健康診断の実施により、質の高い支援を安定提供するための特定事業所加算の取得体制を

整備した。また、LINE WORKS を活用した情報共有システムへの完全移行により、セキュリティの強化と情報のアーカイブ化を図り、関係者や他事業所との連携基盤を強化した。

③行動援護

【アルス・ノヴァ ULTRA】

■利用者数

延提供時間 1.5 時間（前年度比約 98%減）

年間延べ実利用者数 2 人（前年度比約 85%%減）

■強度行動障害のある方の外出支援

2025 年 9 月に新規利用の問い合わせがあり、11 月に利用契約、翌 2 月に利用開始した方が 1 名いる。2026 年 3 月末時点で、行動援護の利用契約者は合計 1 名である。年度内に合計 4 件の利用問い合わせがあったが、市内に行動援護事業所が少ないこともあり、通常の事業実施地域外からの問い合わせも含まれており、利用には至らなかった。

移動の自由は基本的人権のひとつであり、それを担保する行動援護事業の重要性は高い。一方、行動援護は従事者に求められる資格要件が厳しいため、アルス・ノヴァ ULTRA では、資格要件が比較的緩やかで従事者を確保しやすい地域生活支援事業の「移動支援」として提供する場合もある。いずれの事業においても、従事者の養成・拡充は地域全体の課題であり、当事業所としても引き続き取り組んでいく。

（2）障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業

今年度事業実施なし

（3）障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業

【相談支援事業所ちまた公民館】

令和 7 年（2025 年）1 月 1 日に相談支援事業所ちまた公民館が開所し、事業所の運営が始まってから 1 年が過ぎた。運営を 1 年以上続けてきて見えてきたのは、当事業所の利用者は大半が就労系の福祉サービス利用者であることだ。現在、27 名の計画を作成しているが、その 9 割近くが就労系サービスを利用している。この利用サービスの偏りは当事業所の立地が大きく関係していると思われる。当事業所は中心市街地のほぼ真ん中に位置している。一方、他法人が運営する相談支援事業所は中心市街地を避け郊外に立地していることが多い。そして、就労系サービスも交通の便が良い浜松駅周辺に集まっている。利用する福祉サービス事業所と相談支援事業所は近い方が利便性が高いため、当法人に利用者が集まっているのだと思われる。

今後も中心市街地にある強みや、これまでに培った就労支援の経験や関係機関との繋がりを活かしながら、その人が望むその人らしい暮らしの実現に向けて支援を続けていきたい。

（4）障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業（移動支援）

【アルス・ノヴァ ULTRA】

■利用者数

延提供時間 316.5 時間（前年度比約 19%増）

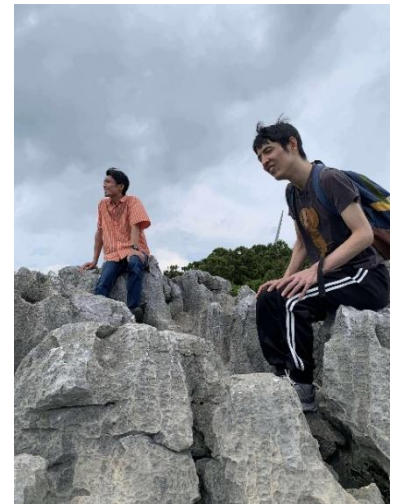
年間延べ実利用者数 67 人（前年度比約 52%増）

■移動支援のニーズと課題

アルス・ノヴァ ULTRA は、移動支援を通じて、障害のある人の外出や参加、多様な出会いを支援している。

2025 年度、アルス・ノヴァ ULTRA は移動支援事業の提供体制を整備した。生活介護事業は集団での支援を基本とするため、個別の外出ニーズに応えることが難しい場面があった。そこで、アルス・ノヴァの生活介護を利用する当事者に対して、平日午後移動支援を活用した個別の外出支援を組み込んだ。土日は介護者の人員確保が難しい一方、平日日中であれば介護者を派遣しやすいという事業所の実情と、通所先を休んででも平日に個別の外出をしたいという当事者のニーズが合致し、平日日中を中心とした提供体制が整えられた。生活介護、重度訪問介護、移動支援を組み合わせながら、当事者一人ひとりの「やりたいこと」を実現する手段として、移動支援の活用を推進していく。

一方、新規利用の問い合わせや土日祝日の利用希望も引き続きあるが、すべてに対応できているわけではない。移動の自由は基本的な人権であり、それを担保する移動支援事業の重要性は極めて高い。従事者の養成・拡充は地域全体の課題であり、当事業所としても引き続き取り組んでいく。



平日の移動支援にて

（5）障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業（日中一時支援）

地域活動支援センターが 2025 年 1 月より開始されたことに伴い、2025 年 7 月 1 日から営業時間を土曜日のみ 9:00～18:00 に短縮・変更。それまで平日に日中一時を利用していた方のほとんどが地域活動センターに移行したため、利用総数は減ったが、大きな混乱はなく営業することができている。利用状況は下記の通り。

- 年度平均利用者数 ※（）は他サービスとの併用無しの利用者数

2025 年度 10.5（5.17）件 | 2024 年度 14.9（7.8）件

- 月別平均利用者数（2025 年度） ※（）は他サービスとの併用無しの利用者数

2025 年 4 月 17（9）名 | 5 月 12（7）名 | 6 月 17（9）名 | 7 月 15（6）名 | 8 月 6

（5）名 | 9 月 10（5）名 | 10 月 13（4）名 | 11 月 7（3）名 | 12 月 7（4）名

2026 年 1 月 5（4）名 | 2 月 9（3）名 | 3 月 8（3）名

（6）障害者総合支援法に基づく地域生活事業（地域活動支援センター）

【相談支援事業所ちまた公民館】

地域活動支援センターも開所して 1 年以上が経った。開所した当初は利用者が少ない日もあったが、地道な広報活動が功を奏し最近では毎日 10 名前後、多い日では 20 名を超える方に来所していただいている。提供しているプログラムはスタッフが企画し運営しているものが多く、今は「ちまたまクッキング」「Kibori 部」「朝鮮・韓国語講座」「麻雀会」「手芸部」「かたりのづぁ」「SDM（最

近どうっすかミーティング)」といった、表現活動や学び、話し合いのプログラムを実施している。

当事業所が立地している中心市街地は就労系の福祉サービスが集中しており、来所する利用者も就労系の福祉サービスを利用する方が多い。就労施設では集中して作業に取り組み、サービス終了後に地域活動支援センターで休憩したり、他者との交流を楽しんでいる方が多い印象を受ける。最近では作業所の垣根をこえて交流される方も多く、そういった交流の中から自発的にイベントを企画し運営する動きも見られるようになってきた。

今後も障害の有無にかかわらず誰もが集える居場所として、プログラム活動の充実や広報・周知に力を入れつつ、利用される方々の生活が少しでもより豊かになるような取り組みを続けていきたい。

(7) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

今年度事業なし

(8) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

今年度事業なし

(9) 地域福祉に資するシェアハウス・ゲストハウス事業

たけし文化センター3階はシェアハウス4室、ゲストハウス1室（2名宿泊可）があり、シェアハウスでは、知的障害のある方2名がヘルパーの支援を利用しながら自立生活を送っている。完全に親元を離れるのではなく、週に1～2日は家へ戻るリズムで安定している。

こうした生活が定着しているいっぽうで、日中サービスである生活介護の利用者も年齢が30代が多くなり、本人の介護をする同居家族の高齢化など様々な事情から実家での生活が困難になってきた方が増えている。障害支援区分や個々の状況により、ヘルパーサービスである重度訪問介護の支給が受けられなかったり、支給量が少ない場合もあり、宿泊はせずとも、せめて夕方から夜にかけて、食事や入浴、のんびりするだけでも助かる、ということから、ゲストハウスの日帰り料金を設定しての対応を引き続き行っている。現在は7名が週1～3回程度の日帰り利用や、週1回からの宿泊体験をしている。

また令和7年度では、シェアハウスはあくまで自立生活体験の場であるという意識を改めて持ち、シェアハウス以外での次なるステップの模索が始まった。1名はシェアハウスを出て、賃貸物件でのひとり暮らしを始めている。

ゲストハウスは毎月の観光ツアーで利用されることが多い。ツアー定員が10名なのに対し、ゲストハウスは同性2名までが定員であるため、早く申し込んだ方から埋まり、お断りすることも多い。ゲストハウスは口コミや問い合わせで受け入れているため、一般宿泊者は多くないが障害当事者が遠方から宿泊をしたり、アーティストが滞在したりといった今後の展開が見込まれる。

(10) 地域社会福祉に資する不動産事業

今年度事業実施なし

(11) 共生社会を目指す体験型交流事業

■タイムトラベル 100 時間ツアー

〈実施記録（日付・参加者数）〉

- 4/18～4/19 4名（京都大学、上智大学、IT、福祉、映像作家）
5/16～5/17 13名（愛知大学・吉野ゼミ、当事者、福祉関係者）
6/20～6/21 3名（医療関係者、NPO 職員）
7/18～7/19 12名（浜松市役所、静岡大学、JICA 海外協力隊、立教大学、国際基督教大学ほか）
8/29～8/30 5名（アーツ前橋、キキ・クリエティブ、京都大学、福祉関係者ほか）
9/20～9/21 8名（スタジオクーカ、株式会社ソミックマネージメントホールディングス、九州大学、教育委員会関係 ほか）
10/17～10/18 7名（一般社団法人ベンチ、医療法人社団保順会、当事者、京都大学、会社員 ほか）
11/14～11/15 7名（国際基督教大学、療育医療センター、会社員、京都大学 ほか）
12/19～12/20 5名（医療関係者、京都大学、 ほか）
1/16～1/17 6名（NPO 法人 laule'a PLAY WORKS リノア、京都大学、会社員 ほか）
2/20～2/21 7名（静岡福祉大学、日本福祉大学、立命館大学、障害福祉法人 ほか）

■かしたしたけし

〈実施記録（日付・場所・参加者）〉

- 5/20 聖隷クリストファー大学（看護学部） 100名
5/21 富塚中学校 60名
5/29 中京大 50名
7/7 聖隷クリストファー大学（社会福祉） 100名
8/2 森町 20名
11/28 !⇄!(INTER CHANGE) @金城市場 30名
11/28 エイブル・アート・ムーブメント 30周年記念フォーラム @京セラ美術館 200人
12/3 愛知大学 20人
12/8 聖隷クリストファー大学 100人
12/13 多職種連携研修
3/14 東京（日本財団講演）

■みにみにアルス・ノヴァ、GOGO!たけぶん探検隊!

みにみにアルス・ノヴァは、昨年度に引き続き、月に1度程度の頻度で佐鳴台小を訪問し交流した。GOGO!たけぶん!探検隊については、普通校と特別支援学校の両方から児童を受け入れていて、利用中の普通学校の子も達から特別支援学校の子も達への係わり方に悩む放課後等デイサービス事業所から、実施することでもし何か変化が起せば、ということで依頼があり、夏季の長期休みに合わせ実施した。春休みにも依頼があったが、ガイダンスやワークが必要ないとのことで、最小限の説明のみにとどめた。

後日、普通校の児童の係わり方に少し変化が見られたこと、そのことで職員さん同士盛り上がったことなど感想を頂いた。

【開催データ】

●みにみにアルス・ノヴァ

開催日：2025年 6/5(木) 7/3(木) 9/4(木) 10/2(木) 11/6(木) 12/4(木)

2026年 1/15(木) 【中止】 2/5(木)

開催時間：12:30-13:30

会場：佐鳴台小学校

●GOGO!たけぶん探検隊！

参加団体：ヒーローズジュニア東伊場教室

開催スケジュール：2025年 7/4 (金) 11:00～12:00 打ち合わせ

2025年 8/27 (水) 13:00～15:00 GOGO たけぶん探検隊ヒーローズ

2026年 3/30 (月) 13:00～15:00 GOGO たけぶん探検隊ヒーローズ

会場：たけし文化センター連尺町

(12) 文化センター事業

今年度「表現未満、プロジェクト」が始まって10年が経過した。同時に始まった観光事業をこの節目に振り返る事業を行った。観光者へのアンケートやヒアリングを行うとともに、観光事業の今後についての検証も行った。

2018年に活動を始めた「たけし文化センター連尺町」は障害福祉施設アルス・ノヴァを併設しながら地域の文化創造発信拠点として活動している。また地域との連携強化を目的として行っている「お祭ごっこ～みんなでつくる凸凹まつり」も新しい建物の建設予定地（2025年度レッツ購入）で行った。またちまたパークとして約6か月市民に開放しながらさまざまなイベントを行った。これによって地域へのこうした事業への浸透が進んだ。

■2025年度 助成元、支援元

- 文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」（文化庁）
- 2025年度「文化芸術による地域振興プログラム」（アーツカウンシルしずおか）

①表現未満、プロジェクト

1. 「表現未満、センター」共創事業

1-(1) 浜松ちまた会議～私のちまたをつくる

表現未満、センター予定地（更地、60坪）を解放し、市民が自由に使える「遊び場」を提供する。スケートボードパーク、サッカー、水浴び、プール、焚火、キャンプ、井戸掘り、お祭など市民からやりたいことを募り、実践することで、ともに助け合いながら共同で運営していく将来の姿を構想していく。／開放期間 2025年4月～2026年3月 ／参加団体 30団体（地元団体）

1-(1) -① 表現未満、センター共創事業視察・調査

- ・ちまたパークのための視察（ウォールアート、子供パーク、七間町）（静岡）5月26日
- ・ちまたパークのための打ち合わせ（静岡）9月11日、9月18日
- ・祭り実施のための体験・調査（浜松まつり 連尺町）5月3日～5日

1-(1) -② ちまた文化祭 2025 開催

開催期間：2025年9月1日～2026年2月20日

会場：ちまたパーク、ちまた公民館、たけし文化センター連尺町

参加者数合計：1,335名

イベント数：102個

【いろいろつくろう！表現しよう！シリーズ】（開催日 | タイトル | 参加者合計）

9/20(土) オープニングイベント「みんなで壁に落書きしよう」 50名

10/18(土) 11:00-13:00 落書きワークショップ by NU-TRIA 100名

講師：近藤哲也さん（NU-TRIA skatepark）

10/18(土) 11:00-13:00 科学館有志ワークショップ「ものものがたり」 20名

11/1(土) 13:00-16:00 「メキシコの死者の日を楽しもう！」 50名

講師：ラウラ・ロドリゲス（ビジュアルアーティスト）

『なあ、俺達と「ものづくり」を楽しまないのかっ!?!』 by 障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ

10/11日(土) 18:00-20:00 10名 | 10/25日(土) 18:00-20:00 6名

11/8(土) 18:00-20:00 12名 | 22(土) 18:00-20:00 12名

■ミドのヴぁスペシャル 2025 「わかりあわないまま、ともにいる」(全10回)

11月11日(火)「死ぬことと生きること①～報われるってなに?～」

vol.1 昼の部 10:30～12:00 10名

vol.2 夜の部 18:30～20:00 7名

12月9日(火)「死ぬことと生きること②～どんな死に方をしたい?～」

vol.3 昼の部 10:30～12:00 4名

vol.4 夜の部 18:30～20:00 4名

2026年1月13日(火)「家族との距離感①～家族は本当に頼れる存在なのか?～」

vol.5 昼の部 10:30～12:00 9名

vol.6 夜の部 18:30～20:00 6名

2月10日(火)「家族との距離感②～家族の中で、「個人」と「自立」は共存するのか?～」

vol.7 昼の部 10:30～12:00

vol.8 夜の部 18:30～20:00

3月10日(火)「困ったときに一緒にいてくれる近くの人とは友人?それとも隣人?」

vol.9 昼の部 10:30～12:00

vol.10 夜の部 18:30～20:00

■井戸端しえんかいぎ (会場はすべて [ちまたパーク])

第1回 10/23(木) 10:30-12:00 「ごはんをつくって食べること」

ゲスト：菅沼映里 (ammikkal 代表・オーナーシェフ) 参加者：30名

第2回 11/27(木) 10:30-12:00 「ぼくらが旅に出る理由」

ゲスト：竹山友陽 (サッカー英語講師/地域メディア運営) 参加者：21名

第3回 12/11(木) 10:30-12:00 「抵抗の拠点としての家/生活」

ゲスト：村上慧 (アーティスト) 参加者：30名

■他人の土地を自分の場所のように使ってもらうためのあれこれ（主催：他人堂）

第1回 9月22日（月）17:00～20:00

「一鉢市民農園のオーナーになる」 参加者：15名

第1.5回 9月22日（月）17:00～20:00

「一鉢市民農園のオーナーになる」 参加者：6名

第2回 10月20日（月）14:00～20:00

「公園の管理人になる」 参加者：10名

第3回 11月17日（月）14:00～19:00

「花見の場所取りをする」 参加者：10名

第4回 12月22日（月）18:30～20:30

「場所のルールづくりを考える」 参加者：3名

■そのほかのイベント

・昼寝部 by 文芸大 10/9（木） 参加者：12名

・玄関ライブ 9/17(水) 参加者：18名 | 10/15(水) 20名 | 12/17(水) 17名 |

■ちまたパーク（会場：ちまたパーク）

10/18(土) 17:30-19:00 「ちまたパーク」 妄想会議

ゲスト：松本憲（廃材廃品収集家） 参加者：21名

11/6(木) 18:00-20:00 「スナックありじごく」

店主：高木落子（クリエイティブサポートレッツ） 参加者：30名

11/29(土) 13:00-15:00 「ちまたパークで何かしよう」 参加者：9名

■凸凹まつり

凸凹パレード楽隊

11/6（木） 会場：ちまたパーク | 11/20（木） 会場：ちまたパーク 13名

12/4（木） 会場：アルス・ノヴァ 13名 | 12/4（木） 会場：ちまたパーク 10名

凸凹まつり MTG

10/24（金） ちまた文化祭実行委員会（MTG・交流会） 26名

11/28（金） 凸凹まつり直前 MTG 25名

凸凹まつり

12/6[土] お祭りごっこ!! みんなでつくる凸凹まつり 2025～今年みんな集まってまったり

1-(1) -③ 共通パンフレット・広報活動

・共通パンフレット制作 8000部（A2判両面カラー）／ポスター200

・その他のチラシ制作（カラー版1000部）（単色印刷等5000部）郵送 2500部

・ちまた祭り映像、写真記録作成

・SNS広報8月～12月

・ちまた祭り・ちまた公民館・ちまたパーク報告書 4,000部（A4判カラー）

・郵送 1,227部

1-(2) 表現未満、センター運営会議

表現未満、センターをどのように運営していけばいいか、そのための組織づくりを含めての会議をちまた会議メンバー、市民、有識者と行っていく。

- ・運営会議（7名 5回）（5月～2月）
- ・先進事例見学会（2回）（10月、11月）
- ・調査・分析・まとめ（外部スタッフ 3事業者）
- ・表現未満センターパンフレット制作 5000部（A2 両面カラー）
- ・郵送 2000部

1-(3) ちまた公民館+たけし文化センター事業

当法人が中心市街地で運営する、ちまた公民館、たけし文化センター連尺町、たけし文化センター伝馬町において講座やトーク、ワークショップ等を通して対話の場を設ける。

特に様々な講座を実践してきたちまた公民館では、街の人々による「ちまたトーク」、講師による「ちまたスクール」、を引き続き行うとともに、他関係団体とともに地域の課題解決のためのイベントや生活相談支援等も行っていく。

- ・開催イベント：ちまたトーク月1回 10回 /ちまたスクール月1回 10回 /ちまたご飯会月1回 10回 /クラブ・アルス（クラブイベント）2回 /玄関ライブ月1回 /かたりのヴぁ（哲学カフェ）月2回 /演劇ワークショップ等々 /
- ・来館者数：延べ 3171名：※2025年4月16日～2026年1月
- ・開催イベント数：118
- ・参加者総計：637名 ※2025年4月16日～2026年1月

1-(3)-① エアロビ WS（計 10 回）

開催日：2025年 6月3日、10日、17日、24日 | 7月1日、8日、22日 |
8月5日、19日、26日 | 9月2日、9日、16日、30日 |
10月7日、14日、21日、28日 | 11月4日、11日、18日、25日 |
12月2日、9日、16日、23日
2026年 1月6日、13日、20日、27日 | 2月3日、10日、17日、24日 |
3月3日、10日、17日、24日、31日

1-(3)-② ちまたトークシリーズ（全 10 回）

1. 9/26 近藤哲也（NU-TRIA skatepark）参加者：14名
2. 10/1 石塚友一（訪問パートナーときわ薬局） 18名
3. 10/7 高林健太（株式会社 HACK 代表取締役 / 共同創業者） 14名
4. 10/17 加藤香名子、鎌田理映（浜松科学館みらいーら スタッフ） 16名
5. 10/22 伊藤実希（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 主事 / 板屋圏域 CSW（コミュニティソーシャルワーカー）） 15名
6. 10/31 竹山友陽（サッカー英語講師 / 地域メディア運営） 21名
7. 11/14 内藤照幸（ナイトー工業株式会社） 15名
8. 12/11 村上亜沙美（村上製本） 18名
9. 12/12 森泰之・まさよ ご夫妻（82 森ビル、キリムの森） 15名
10. 12/17 鳥居宏一（欠席）、辻加奈子（ゆる～くつながる浜松不登校親の会） 18名

1-(3)-③ ちまた公民館 WS 打ち合わせ

ちまた公民館 WS 打ち合わせ 7月 22 日、23 日

1-(3)-④ ちまた公民館講座

(各講座)

- ・レッツ爆発アート実験室 (毎月 1 回) 計 12 回
- ・朝鮮・韓国語講座 (毎月第四金曜) 計 12 回
- ・麻雀会 (毎月第二金曜) 計 10 回
- ・メゾン・ド・あき (毎月第 1・3 土曜) 7 回
- ・ちまちまクッキング (毎月月曜月 1 回) 計 12 回
- ・ゲーム部 (不定期) 24 回
- ・SDM (毎週水曜日) 計 48 回
- ・マダム会の会主催ごはん 10 会 (毎月第四水曜)
- ・手芸部 (不定期) 17 回
- ・文芸大生による居場所研究会 4 回
- ・夏休みこどもの居場所「みずたまり」8 回 (8 月毎週木・金曜)
- ・ベイブレード X 大会 (子ども企画) 4 回
- ・淳子さんの銅版画教室 (毎月第 1・3 木曜) 20 回
- ・短歌部 (持ち込み 不定期) 4 回

1-(3)-⑤ 玄関ライブ (毎月 1 回)

4 月 16 日(水) 18 名 | 6 月 18 日(水) 20 名 | 7 月 16 日(水) 22 名 | 8 月 20 日(水) 20 名 | 9 月 17 日(水) 20 名 | 10 月 15 日(水) 23 名 | 12 月 17 日(水) 22 名 | 1 月 21 日(水) 22 名

1-(3)-⑥ ミドのヴぁ 計 10 回

開催日: 毎月第 2 火曜

ファシリテーター: 久保田翠

(開催日・タイトル・参加者数)

- 4/8 「私はこれからどうするのか」 参加者 8 名
- 5/13 「すきなことと暮らしと仕事と生活」 6 名
- 6/10 「人に言いたい、でも言えない、～なぜかを考える」 7 名
- 7/8 「あなたの一番大切なもの・こと」 7 名
- 8/19 「苦手なことと嫌いなことはおなじ? 得意なことと好きなことは同じ?」 8 名
- 9/9 「最近、幸せだなあと感じたことは何ですか?」 8 名
- 10/14 「孤独死って何? そんなにダメなものなのか?」 9 名

1-(3)-⑦ かたりのヴぁ (毎月第一土曜日) 計 10 回

(開催日 | タイトル | ファシリテーター)

- 4/14 「おしゃれ」 松宮俊文
- 5/10 「名前」 杉田可縫
- 6/9 『それぞれの「歳をとる」』 竹内聡
- 7/5 「がんばらない」 尾張美途
- 8/18 「ひとりで作る-みんなで作る」 見山陸生

- 9/6 「失敗との付き合い方」水越雅人
- 10/20 「落子さん」塚本千花
- 11/8 「絵を描きながら話してみよう」出張かたりのヴぁ @とき込みスペース（常盤薬局）
- 12/8 「責任と無責任のあわい」ササキユーチ
- 1/24 「いる口実」 佐々木知里（外部）
- 2/9 「アルス・ノヴァ」佐藤啓太
- 3/7 「友達」杉田可縫

1-(3)-⑧ 【協働事業】 HICE×JICA 浜松×社会福祉協議会×レッツ

- ・打合せ 2025年 4/18 5/23 6/24 8/22 9/16
2026年 1/6 1/23 3/6
- ・イベント 2025年 8/29 レトルト食品を食べる会 会場：ちまた公民館
2026年 2/21 これからちまたパーティー 会場：ちまたパーク

1-(4) アーティストとの共同作業（アーティスト・イン・レジデンス）

3か所の拠点を活用して、場づくりやことづくりをアーティストとともに思考し実践するためのレジデンスを実施する。

- ・招聘アーティスト2名、6月～9月（延べ30日間）

1-(4)-① 「村上慧と井戸を掘る」

- ・打ち合わせ及び企画・調整 7/1、28 | 10/20 |
- ・ちまたパークに家を作るWS 11/4～11/7
- ・井戸をほるWS 11/27 | 12/11、12、13 | 1/16、26 | 3/13 |
- ・井戸を掘る新年大会 1/17

1-(4)-② アーティストインレジデンス（武田知也、倉田翠、一般社団法人ベンチ）

- ・打ち合わせ及びレジデンス 2/4～2/6（武田、倉田）

2. 新しい価値創造～ラーニングプログラム

2-(1) ひとインれじでんす～研究者とのセッション

レッツでの観光を体験した有識者を招聘して、支援、場づくり、表現についての調査を共に行う。有識者が長期間滞在しながら、当法人の支援にある、「表現未満、」を考察しながら新しい価値創造についての対話を重ねていく。

〈実施期間〉 2025年5月～2026年1月

- ・アーティストとのセッション（ワークショップと対話）10日間
- ・美学者とのセッション（リサーチと対話）8日間
- ・文化人類学者とのセッション（リサーチと対話）8日間
- ・文化政策研究者とのセッション（リサーチ・ワークショップと対話）8日間

2-(1)-① 研究者とのセッション

- ・伊藤亜紗（美学者） 11月3-4日、2月25日、3月2日 寄稿（ウェブ掲載）

2-(2)「新しい価値創造に向けての会議とフォーラムの実施

①、②で深めてきた知見をもとに議論と対話の場を設け、今後の事業展開に生かしていく。また9月には京都哲学研究所主催の国際会議に参加し事例発表を行うとともに議論を深めていく。国際会議に参加（京都）（9月）

2-(2)-① 京都哲学研究所フォーラム

- ・京都哲学研究所代表出口康夫（京大教授）さんとの打ち合わせ 7/16
- ・第1回京都会議-「価値多層社会」の実現に向けて（主催：京都哲学研究所、共催：京都大学、後援：日本経済団体連合会、経済同友会、日本商工会議所、京都府、京都市）フォーラム参加（和久井・久保田） 9/23～9/24

3. 観光事業のブラッシュアップ

3-(1) 観光事業リサーチ・ヒアリング、アンケート（15か所）

- ・観光事業（タイムトラベル 100 時間ツアー、かしたしたけし、等）
- ・参加者に向けたアンケートの実施（全国）5月～7月
- ・研修で訪れた企業や個人、観光事業参加者へのヒアリング実施
20件程度（全国）8月～12月

3-(1)-① 観光事業アンケート調査

- ・送付 251 人 | アンケート到達 220 人 | 回答者 35 人

3-(1)-② 観光事業ヒアリング調査

- ・対象者：合計 28 名
7/11 岡本隆太郎 | 7/14 安藤香澄（はなぞの会） | 7/16 熊澤洋介 | 7/22 ベルコウィッツ・メリサンダ（中京大学） | 7/22 乾ゼミ（横浜国立大学） | 8/6 坂本道子（聖隷クリストファー大学） | 8/8 吉野さつき（愛知大学） | 9/29 大熊玄 | | 10/10 米田量 | | 10/17 日賀優一 | 10/22 梶本貴之 | 10/23 根木一子 | 10/24 岩崎美和 | 10/30 佐々木昌子 | 10/31 ネメシュ仁美 | 11/4 櫻井健作 | 11/14 石井稔 | 11/18 森本しま | 11/21 三川良寛（ほか）

3-(1)-③ 観光事業ブラッシュアップのための参加者ヒアリング

- ・京都大学文学部（出口康夫、ワダ・マルシアーノ）視察とヒアリング

3-(2) 先進事例視察見学

- ・プログラム開発に必要な先進事例の視察とヒアリング
- ・先進事例見学 5 件（福島、福岡、北海道、東京、その他）（11月～1月）
- ・シェアハウス・ゲストハウス先進事例見学 3 か所（7月～12月）

3-(2)-① プログラム開発のための先進事例見学

- ・はちくりハウス（東京）、京島（東京）アートセンター視察・調査 9月29日
- ・他、浜松市内の福祉施設

3-(3) プログラムの開発

上記の調査をもとに研修メニューを開発する。同時に、タイムトラベル 100 時間ツアー、かしたけし、教育プログラムを新たにブラッシュアップする。

●プログラム開発 6月～3月

- ・観光事業共同開発会議（オンライン） 9/22
- ・共同開発実践「福島第一原発関連ツアー」 11/17～11/19
共同開発者：小松理虔（地域活動家）、江尻浩二郎（郷土史研究会）、IGOKU、
レッツスタッフ 7名（原発事故から 15 年の現地を観光するツアーを実施）
- ・共同プログラム開発プレゼン 社会デザイン学会 12/14
- ・8/29～8/30 参加者：5名（飲食、アート関係者、京大、東京社協、アーツ前橋）
- ・9/19～9/20 参加者：8名（福祉施設長、九州大学、教育委員会、IT 企業）

●アドバイザー 4名（地域活動家、企業 CSO、企業経営者、大学教授）

●アドバイザー会議 5回

●企画書、パンフレットの制作（パンフレット 1 万部）

●プログラム開発のためのヒアリング

●プログラム開発のための視察・ヒアリング

3-(4) プログラムの実施

開発したプログラムを実施しさらに改良する

●タイムトラベル 100 時間ツアーの実施

●かしたけしの実施

●協働プログラムの実施

- ・観光事業共同開発会議（オンライン） 9/22
- ・共同開発実践「福島第一原発関連ツアー」 11/17～11/19 日
共同開発者：小松理虔（地域活動家）、江尻浩二郎（郷土史研究会）、IGOKU、
レッツスタッフ 7名 原発事故から 15 年の現地を観光するツアーを実施

※「(11) 共生社会を目指す体験型交流事業」を参照

3-(5) 報告書の作成

- ・「3・観光のブラッシュアップ事業」をまとめた方向書を作成する
- ・タイトル：「光は観えたか～観光の 10 年と今～」
使用・発行部数：A5 判、4000 部（印刷は他事業）、配布 2000 部
- ・記録集デザイン：BOB des'

3-(6) 観光プロモーション動画の制作

- ・内容：共生社会実現のため 2016 年から行っているタイムトラベル 100 時間ツアーをより広く周知するための PV を制作した。特に、企業・福祉施設等により効果的に伝えるため、現在の 1 泊 2 日の流れを端的にまとめている。
- ・撮影、編集：樋口勇輝

4『表現未満、プロジェクト』のコンテンツの整理・ウェブ配信

4-(1) レッツ観光局 WEB 作成

- ・サイト URL <https://cslets.net/wp/project/100htour-top>

- ・観光 WEB 写真撮影（1月～3月）
- ・観光 WEB 作成（1月～3月）
- ・メールニュース毎月（12か月・リーチ 240,000人）

4-(2) 広報

- ・ポットラック・アートブックフェア（名古屋）出展 7/8～8/30
- ・観光ツアーパンフレット配布 2,000部
- ・SNS 広報、メールニュース配信（毎月計 12回）

②文化センター拠点整備事業

1・たけし文化センター田町新築計画

2028年4月の完成に向けて、2025年度は基本設計、実施設計を行う。また年度末に入札を完了し、2026年度より建設が始められるように準備する。

- 浜松市中央区田町 326-23
- 商業地域、防火地域
- 7階建ビル／敷地面積 207.28㎡、建築面積 159.32㎡、延べ床面積 926.11㎡
 - ・多機能型（共同生活援助（10名）、短期入所、重度訪問介護、移動支援、生活介護、地域活動支援センター、計画相談支援）
- シェアハウス、ゲストハウス、シェアキッチン、共同浴場、シェアリビング、コインランドリー
- 総工費 6億円（8割日本財団助成、2割自己負担）
- 2025年度・設計、入札、業者決定／2026～2027年 建設工事／2028年4月オープン

(13) その他、本会の目的を達成するのに必要な事業

今年度事業実施なし

〈その他の実績〉

■受賞

- 社会デザイン賞（主催：社会デザイン学会） 社会デザイン優秀賞

■出版

- 「違和感のゆくえ」
 - 著：認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ（18名） | 編集 垣花つや子・椋本湧也 |
 - カバーデザイン：島村友梨 | 発行：いい風 | サイズ：四六判変形 | ページ：192ページ |
 - 価格：1200円（+税） | 発売：2025年11月末 |

■寄稿

- 日本音楽療法学会東海支部紀要第 10 巻 発行：一般社団法人 日本音楽療法学会東海支部
→代表・久保田翠が寄稿

■ 2025 年度 出演・登壇

【2025 年】

5/27 群馬県公民館連合会総会及び研修会

→代表・久保田翠が講師として登壇

会場：前橋市中央公民館

6/7 第 67 回日本小児神経学会学術集会 市民公開講座 「地域で生きる・地域で支える」

→代表・久保田翠が講師として登壇（タイトル：「重度障がい者が街で生活することが共生社会を実現に導く～たけし文化センターの試み～」）

会場：米子市文化ホール

主催：第 67 回日本小児科神経学会学術集会（鳥取大学医学部脳神経小児科学分野）

6/21 「福祉の現場と哲学カフェ 認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツはどうして 10 年以上哲学カフェを続けてきたのか」

→代表・久保田翠が話題提供者として出演

会場：オンライン開催

主催：NPO 法人こども哲学・おとな哲学アーダコーダ

8/25 2025NPO 女性リーダー交流会

→代表・久保田翠が登壇

会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

主催：ふじのくに NPO 活動支援センター（静岡県）

8/30 「はちのへアートフォーラム」（テーマ：とにいることの可能性～「表現未満、」の実験～）

→代表・久保田翠が講師として登壇

会場：八戸ポータルミュージアムはっち

9/12 福井市公民館主事研修 【オンライン講演会】

研修テーマ『多文化・多様性への理解を深めよう』

→スタッフ・久保田瑛が講師として登壇

10/8 社会を見つめる ともしび・NPO スクール 【オンラインセッション】

「社会の「あたりまえ」を再考する 当事者の視点から」

→代表・久保田翠が講師として登壇

主催：NPO 法人 日本 NPO センター

10/17 さしいれ道場 テーマ「まちづくりを考えたら、福祉にたどり着いた～障害者グループホームの地域拠点化～」

→スタッフの高林が登壇

会場：ときわコミュニティスペース（浜松市常磐町）

11/29 まちなか実証実験「POP UP FOREST」

→開催期間内の 11/29 に開催されたトークセッション「Talk.1 まちなかの公共空間を豊か

にすることをしたいこと・できること」にてスタッフの高林が登壇
会場：The GATE HAMAMATSU 跡地（新浜松駅北遠州鉄道高架下）
主催：浜松市

11/29 「はごろも『夢』講演会」

→代表・久保田翠が講師として登壇

会場：マーガレットこども園 | 企画：マーガレットこども園

11/29 エイブル・アート・ムーブメント 30周年記念フォーラム

→スタッフ・久保田瑛が交流プログラム「これからの私たち①」に登壇

また、「かしだしたけし」でアルス・ノヴァの利用者たちが会場内外で過ごした
場所：京都市京セラ美術館

主催：主催：一般財団法人たんぽぽの家

12/3 愛知大学

→文学部メディア専攻の授業へのゲスト講師としてスタッフ・水越が登壇

会場：愛知大学豊橋キャンパス

12/14 福祉とアーツ北海道「つながるフォーラム 2025」

→代表・久保田翠が講師として登壇（基調講演：『わかりあわないままとともにいる～たけし文化センターと「表現未満、」』）

主催：福祉とアーツ北海道（北海道障がい者芸術文化活動支援センター）

【2026年】

1/8 立教大学 若林朋子 コミュニティデザイン学演習【オンライン講義】

→座談会に代表・久保田翠がゲスト講師として登壇

1/9 「観光まちづくりカフェ」

→座談会に代表・久保田翠がゲスト講師として登壇

國學院大學観光まちづくり学部

会場：國學院大学 たまプラーザキャンパス

1/30 「振り返りと考察 —あらためて、文化政策からみた人権論の可能性—」

→代表・久保田翠がコメンテーターとして登壇

会場：オンライン開催 | 主催：青山学院大学総合文化政策学部中村美帆研究室

2/14 「わかりあわないままとともにいる～多様な人がともに暮らすとは～」

→代表・久保田翠が講師として登壇

会場：浦和コミュニティセンター | さいたま市社会参加推進センター相談事業

3/14 知的障害者インクルージョン実践セミナー2026－海外の実践に学ぶ、支援の考え方と手法－
【第1回】「知的障害者の社会参加について」

主催：日本財団

■講演録

- Social Design Review Vol.17 社会デザイン学会 会報誌
→社会デザイン賞受賞時のスタッフ・夏目の受賞スピーチを掲載
- 「あ、か、さ、た、なでつながる当事者と政治」(参議院議員 天畠大輔 2024 年国政報告会報告書)
→代表・久保田翠の講演、クロスセッションを掲載

■研究論文、学会発表

- 口頭発表『認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツの「表現未満、」プロジェクトに関する考察～作家主義から関係性へ～』
発表者：和久井碧（立教大学大学院 社会デザイン研究科博士課程後期課程）
発表日時：11/16 日 「第 98 回 日本社会学会」にて | 会場：一橋大学国立キャンパス
- 修士論文「街で共に暮らし続けることの社会学——知的障害者の地域自立生活に従事するスタッフの日常的コンフリクト場面における実践に注目して」
→クリエイティブサポートレッツにおけるフィールドワーク、スタッフへのインタビューをもとにした修士論文
著者：熊澤洋介（京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程 人間・環境学 専攻）
- 論文「障害のある人の表現活動の効果モデル形成に向けた成果に関する分析——生活介護事業所における Good Practice 事例調査を通して——」
→インタビュー調査に協力
著者：小野田 由実子

■メディア掲載

[冊子]

- ・ 2025 年 9 月号 宅建しずおか vol.513 に掲載されました
- ・ a+a 美学研究 | 第 16 号 「特集：生きることの美学」
→服部正さん（甲南大学文学部教授）が書いた「居場所化する障害者の美術」の中でクリエイティブサポートレッツの活動が紹介されている
編集：大阪大学大学院人文学研究科美学研究室
- ・ NEUTRAL COLORS 2025 「特集：滞在で感じたあの特別な時間はなんだ」
→タイムトラベル 100 時間ツアーに参加した藍谷凧さんの体験記「100 時間 表現未満、」を掲載
- ・ 「学校をお休みしているみなさんへ」
→「地域にある居場所」をテーマにした冊子にちまた公民館が掲載
編集・制作：ゆる～くつながる浜松不登校親の会

[WEB]

- ・ Note 【公式】エイブル・アート・ムーブメント
「トーク@光の広間 これからの私たち① 前編」
「トーク@光の広間 これからの私たち① 後編」
→エイブル・アート・ムーブメント 30 周年記念フォーラム 2 日目（2025 年 11 月 29 日）に開催されたトーク「これからの私たち①」の内容を掲載

[新聞]

- 6/17 中日新聞「障害者交流拠点 中心街に」
- 8/27 中日新聞「28年春 浜松に複合施設 街に居場所 多様な交流」
- 11/30 中日新聞「実験のような時間 楽しもう」
- 12/7 中日新聞「落書き OK 遊びも出会いも」

2025年(令和7年)8月27日(水曜日)

(25) 社会 今期7年(2023年)8月17日(火曜日)

障害者交流拠点 中心街に

浜松のNPO、28年開館へ

グループホーム 複合施設内 シェアハウスや銭湯 一般も利用

「グループホーム」や「シェアハウス」など、障害者だけでなく一般の人々も利用できる複合施設が、浜松市中央区の中心街に建設される。NPO法人「久保田さん」が中心となって、28年開館を予定している。施設内には、グループホーム、シェアハウス、銭湯、カフェなどが併設される。また、障害者だけでなく一般の人々も利用できる。施設は、中心街の活性化と、障害者の社会参加を促進することを目的としている。

久保田さん理事長のコメント：「この施設は、障害者だけでなく一般の人々も利用できる。中心街の活性化と、障害者の社会参加を促進することを目的としている。」

施設概要：

- 施設名：久保田さん複合施設
- 所在地：浜松市中央区
- 開館予定：28年
- 施設内容：グループホーム、シェアハウス、銭湯、カフェ

2025年(令和7年)8月27日(水曜日)

(25) 社会 今期7年(2023年)8月17日(火曜日)

街に居場所 多様な交流

28年春 浜松に複合施設

NPO法人・久保田さん「障害者と健常者 区別なく」

「グループホーム」や「シェアハウス」など、障害者だけでなく一般の人々も利用できる複合施設が、浜松市中央区の中心街に建設される。NPO法人「久保田さん」が中心となって、28年開館を予定している。施設内には、グループホーム、シェアハウス、銭湯、カフェなどが併設される。また、障害者だけでなく一般の人々も利用できる。施設は、中心街の活性化と、障害者の社会参加を促進することを目的としている。

久保田さん理事長のコメント：「この施設は、障害者だけでなく一般の人々も利用できる。中心街の活性化と、障害者の社会参加を促進することを目的としている。」

施設概要：

- 施設名：久保田さん複合施設
- 所在地：浜松市中央区
- 開館予定：28年
- 施設内容：グループホーム、シェアハウス、銭湯、カフェ

2025年(令和7年)8月27日(水曜日)

(25) 社会 今期7年(2023年)8月17日(火曜日)

落書きOK 遊びも出会いも

浜松 障害者の活動支援イベント

静岡北高科学部 望月

「落書きOK」や「遊びも出会いも」をテーマとした活動支援イベントが、浜松市で開催された。静岡北高科学部の望月君が、イベントの進行をサポートした。イベントには、落書き大会、ゲーム大会、交流会などが行われ、参加者からは「楽しかった」「新しい友達が見つかった」といった声が上がった。

望月君のコメント：「このイベントは、障害者の社会参加を促進することを目的としている。参加者からは、楽しかったという声が多く聞かれた。今後もこのようなイベントを開催していきたい。」

施設概要：

- 施設名：久保田さん複合施設
- 所在地：浜松市中央区
- 開館予定：28年
- 施設内容：グループホーム、シェアハウス、銭湯、カフェ

2025年(令和7年)8月27日(水曜日)

(25) 社会 今期7年(2023年)8月17日(火曜日)

実験のような時間 楽しもう

浜松のNPO法人 6日「祭り」来場呼びかけ

思いの衣装でパレード 出店やミニライブも

「実験のような時間 楽しもう」をテーマとした活動支援イベントが、浜松市で開催された。NPO法人「久保田さん」が中心となって、6日「祭り」を開催した。祭りには、パレード、出店、ミニライブなどが行われ、参加者からは「楽しかった」「新しい友達が見つかった」といった声が上がった。

久保田さん理事長のコメント：「この祭りは、障害者の社会参加を促進することを目的としている。参加者からは、楽しかったという声が多く聞かれた。今後もこのようなイベントを開催していきたい。」

施設概要：

- 施設名：久保田さん複合施設
- 所在地：浜松市中央区
- 開館予定：28年
- 施設内容：グループホーム、シェアハウス、銭湯、カフェ

あそび・話す・休む・まつり・表現

たまごがまた

表現未満、プロジェクト

ちまた文化祭

CHIMATA BUNKASAI

参加費 無料

9.20(土) 12.20(土)

会場

ちまた公民館
ちまたパーク
たけし文化センター連尺町

会場は、まちなかにある「ちまた公民館」、「ちまたパーク」、「たけし文化センター連尺町」の3か所

DIV遊具で遊んだり休んだり、UMA(未確認生物)を生み出したり、パレードでまちを盛りだしたり、思い思いに楽しめる時間を、いっしょに過ごそう!

お問い合わせ

認定NPO法人
クリエイティブサポートレッツ

〒410-0314 静岡県浜松市中央区連尺町314-30
電話 | 053-451-1355 (昼間・夜間、休日)
メール | lets-arsnova@nifty.com

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツが
静岡県浜松市の中心市街地に
たけし文化センター田町を作ります

2028年4月完成予定!
みなさまの応援を求めています!

60坪から始まる新しい賃貸

近所の人たちと入れ替わることができるよ

シニアハウスやシェアキッチンも!

家でも学校でもない居場所が欲しいな

今日ここに暮らそうよ

みんなと一緒にごはんを食べて食べたいな

障害のある人もくらしているよ

わかりあわないまま、せもにいる街をつくるよ

文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」
主催：文化庁、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 後援：浜松市

2025年度 ミドのヴォアスペシャル

わかりあわないまま、ともにいる

毎月第2火曜日 10:30～12:00 に行われているクリエイティブサポートレッツの代表である久保田翠がファシリテートを行う哲学カフェ「ミドのヴォア」。

2025年11月から、「わかりあわないままともにいる」ことを考えてみたいと思います。そして、2025年11月～2026年3月はそれぞれのテーマで皆さんと語りあいたいと思います。

2025年
11月11日(火)
死ぬことと生きること①
～報われるってなに?～

昼の部 10:30～12:00
夜の部 18:30～20:00

12月9日(火)
死ぬことと生きること②
～どんな死に方をしたい?～

昼の部 10:30～12:00
夜の部 18:30～20:00

2026年
1月13日(火)
家族との距離感①
～家族は本当に頼れる存在なのか?～

昼の部 10:30～12:00
夜の部 18:30～20:00

2月10日(火)
家族との距離感②
～家族の中で、「個人」と「自立」は共存するのか?～

昼の部 10:30～12:00
夜の部 18:30～20:00

3月10日(火)
困ったときに一緒にいてくれる近くの人は友人?それとも隣人?

昼の部 10:30～12:00
夜の部 18:30～20:00

【ファシリテーター】
久保田翠

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

ミドのヴォアのほか、たくさんイベントが決定中の「ちまた文化祭」。詳しい情報やスケジュールはコチラ



【会場】 ちまた公民館
(静岡県浜松市中央区田町 327-24)

【参加費】 300円 (お茶菓子付)

【その他】 どなたでも参加できます

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ
浜松市中央区連尺町314-30
電話 | 053-451-1355 メール | lets-arsnova@nifty.com



ちまた文化祭

井戸端しえんかいぎ

この街で暮らす知的障害のある青年たちの生活を支援する介助者集団アルス・ノヴァ ULTRA。生活の中でみつけたときめき、悩み、もやもやを持ち寄って語り合う定例しえんかいぎをちまたパークで公開で行います。

① 「ごはんをつくって食べること」

10月23日(木) 10:30-12:00
ゲスト：菅沼映里 (ammikkal 代表・オーナーシェフ)
進行：高木路子

会場：ちまたパーク
(浜松市中央区田町 326-23)
雨天時はちまた公民館で実施予定
参加費：無料 (カンパ歓迎)
申し込み：不要

② 「ぼくらが旅に出る理由」

11月27日(木) 10:30-12:00
ゲスト：竹山友陽 (サッカー英語講師/地域メディア運営)
進行：櫻井喜雅智

③ 「抵抗の拠点としての家/生活」

12月11日(木) 10:30-12:00
ゲスト：村上慧 (アーティスト)
進行：ササキユイチ

文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」
主催：文化庁、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ
共催：ちまた文化祭実行委員会 後援：浜松市

文化庁

【お問合せ】 認定NPO法人
クリエイティブサポートレッツ
静岡県浜松市中央区連尺町 314-30
電話：053-451-1355
メール：lets-arsnova@nifty.com
(担当：水越、松宮)



KOREKARA CHIMATA PARTY 2026

これからちまたパーティ
青空焼き芋大会！

2/21(土)
12:00~14:00
◆ 出入自由 ◆

会場 **ちまたパーク** (浜松市中央区田町326-23)
※車で越しの場合は、近隣のコインパーキングをご利用ください。

参加費
200円
未就学児無料



焼き芋大会

あちこちで活躍する焼き芋名人と一緒に、
おいしいサツマイモを焼いて食べます。

多言語避難所受付体験

外国人防災リーダーが今年も活躍！
実際の避難所での受付体験ができます。
こそってご参加くださいネ！

音楽とダンス！

パーティに音楽はかせません。
軽快な音楽とダンスがあれば2月の
寒波もへっちゃら！？

甘酒ワークショップ

お祝いごとや季節の行事に欠かせない栄養豊
富な甘酒！元蔵人で明酒師の解説とともにめ
しあがれ！

これからちまたパーティは、文化も国籍も性別も
障害も年齢もごちゃまぜの誰でも参加できるパーティ
です。福祉や国際交流を軸に活動する4団体が共同で
主催しています。普段なかなか関わることがない人た
ちが出会い、「知り合っていく場づくり」を目指して
います。

社会福祉法人浜松市社会福祉協議会

社会福祉協議会(社団)とは、社会福祉の振興に際し、地域福祉
の推進を図ることを目的とする団体とされており、金銭・物品・
労務・労務提供等に報酬されず無償で活動する「福祉のまちづ
くり」の推進をめざしたさまざまな活動を展開しています。



認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

2009年に設立したアートNPO。共生社会の実現を目指し、障害福祉
サービス事業や文化事業を運営。2018年10月1日7月限り組合併で
「これぞ文化センター活動型」を宣言。2022年10月「社会のまんなか」
に因りて従来の組織の再編成「ちまた公民館」を新設し「民間協会のイ
ンパクト・環境型事業」などを展開している。



(公財)浜松国際交流協会 (HICE)

HICE (ハイス) は、国際化における市民レベルでの国際交流及び
移住・移民の推進を目的として様々な機関と協力しながら活動し
ています。日本国際青年学生協議会、国際交流・情報センター、
市民活動・ボランティア支援、異文化理解等さまざまな事業を行っ
ています。



主催

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ
(公財)浜松国際交流協会(HICE)
社会福祉法人浜松市社会福祉協議会

協力 JICA浜松デスク



お問い合わせ

社会福祉法人浜松市社会福祉協議会
053-453-0553 hsyakyou@tiara.ocn.ne.jp